

暮らすなら、
ここがいい。

2021 ▶ 2032

たまむらまち未来プラン
～第6次玉村町総合計画～

「暮らすなら、ここがいい。」

玉村町は「誇りの持てる住みよいまちを築くこと」を目的とした、玉村町自治基本条例を平成18年に制定しました。その後、平成23年度からの10年間を第5次玉村町総合計画「県央の未来を紡ぐ玉村町」と定め、その実現に向けたまちづくりを町民と協働で進めてまいりました。

さて、社会の状況を見ますと、本計画を策定した2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的蔓延によるパンデミック（感染爆発）が引き起こされ、ニューノーマル（新しい生活様式）と呼ばれる、行動様式の変化や価値観の変化が起っています。

また、科学技術等の進歩も目を見張るものがあり、人工知能（AI）の技術やICT（情報通信技術）の活用が益々期待されており、これからはSociety5.0の時代に入っていくと言われています。また、国連の提唱するSDGs（持続可能な開発目標）に対する取り組みも重要性を増しております。

こういった社会情勢の中、住民の生活にとって自治体の役割は今後益々重要度を増していくと考えられます。また、自治体にとって最も重要な取り組みは、地域の人たちの「人生が充実し、毎日安心して暮らせること」であると考えております。

そこで本計画では、社会がどんなに変革しても変わらない普遍的な目標である「暮らすなら、ここがいい。」を町の目指す将来像と定め、まちづくりに取り組んでいくこととしました。

結びに、本計画の策定にあたり格別なるご理解とご協力をいただきました、総合計画審議会委員の方々をはじめ、多くの皆様に心から厚く御礼申し上げますとともに、将来像の実現にむけて一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

令和3年3月

玉村町長 石川 眞 男





玉村町民憲章

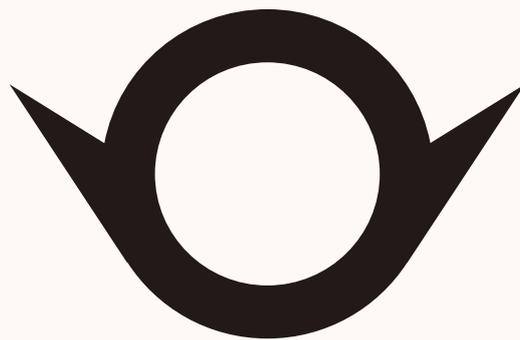
(昭和 52 年 6 月 15 日制定)

- 一 健康なからだと健全な心で、
明るい町をつくりましょう。
- 一 教養を深め、伝統を尊び、
文化の香り高い町をつくりましょう。
- 一 あたたかい愛情と協力によって、
幸せな町をつくりましょう。
- 一 自然を愛し、
緑美しい町をつくりましょう。
- 一 働くことに喜びと誇りをもち、
豊かな町をつくりましょう。

町の紹介

町章

円形は玉村町の「玉」を表わし、それと翼を組み合わせ、飛躍する玉村町を象徴したものです。昭和41年に応募作品の中から選ばれ、制定されました。



モクセイ



町の木と花

町制施行20周年(昭和52年)の際に、町民憲章制定と共に、町民アンケートをもとに「町の木と花」として「モクセイ」と「ばら」がそれぞれ決定されました。

モクセイについては、当時、町に多く存在していたこと、芽吹きが良く、力強い印象があること、比較的管理がしやすいこと、香りが良いことなどの理由から選ばれました。

ばらに関しては、当時高価であったため、一般家庭ではあまり見られませんでした。高級感があり「憧れの花」的な存在だったことから選ばれました。

また、ばらの品種は町制施行50周年(平成19年)を機に「マリアカラス」に決定しました。「マリアカラス」が選ばれた理由は、「丈夫で育てやすく、幅広い年齢層に愛されていることから、健康で明るい玉村町にふさわしい」という思いからきています。令和元年5月には、ばらを市や町の花に指定している全国の自治体が集い『ばら制定都市会議(ばらサミット in たまむら)』が開催され、玉村町文化センターでは開催を記念した植樹が行われました。



ばら マリアカラス

たまたん

玉村町のマスコットキャラクター「たまたん」は、町の花「ばら」の頭で、町の木「モクセイ」の花と自然豊かな玉村町を表現した緑の服を着ています。

6月2日(ローズの日)生まれ。明るくやんちゃで、ちょっぴり照れ屋な一面もありますが、玉村町の魅力を全国にPRするためにがんばっています。



歴史と沿革

玉村町は、古くは古墳時代から栄え、河川に沿った地域を中心に約 200 基もの古墳が確認されています。鎌倉時代には玉村御厨たまむらのみくりやを開発した在地領主・玉村氏が上野国守護である安達氏の家臣として活躍し「吾妻鑑」あづまかがみや「蒙古襲来絵詞」もうごしゅうらいえことばにも登場します。

戦国時代には、武田・上杉・北条氏による勢力争いの影響下にあり、戦国時代末期には上州最大の戦と言われる神流川合戦で、軍配山古墳に陣が置かれたと言われています。

江戸時代では、代官伊奈備前守忠次いなびぜんのかみただつぐが開発にあたり、天狗岩用水を延長して滝川用水を開き、角淵八幡宮を現在の地に遷座せんざし、玉村八幡宮としました。また、倉賀野宿（高崎市）と日光を結ぶ日光例幣使道が整備されて玉村宿がつくられ、毎年4月に京都から例幣使の公家の一行が玉村宿に宿泊しました。

また、利根川岸には五料関所が置かれ、重要な渡河地点として知られ、木材の輸送や米の積出し拠点として賑わいました。こうした水上交通の賑わいにより、京や江戸の文化が早く伝わり、多くの文人や和算家を輩出しました。伊勢崎藩では官民協力のもと 25 の郷校ごうこうを設立し、その一つとして玉村町にも嚮義堂きやうぎどうが作られ、水戸藩とともに庶民教育に力を入れました。

明治4年の廃藩置県で群馬県の管下となり、明治22年の町村制施行により、玉村町・芝根村・上陽村・滝川村が誕生しました。その後、昭和28年に施行された町村合併促進法により、昭和30年に玉村町と芝根村が合併し、さらに昭和32年に玉村町と上陽村及び群南村の一部（旧滝川村の一部）が合併し現在に至っています。



はるか昔から、この町で生まれ、生きてきた人々の暮らしが、今の私たちにつながっています。



目次

第1部 総論

第1章 計画策定にあたって

1. 策定の趣旨 2
2. 計画の6つの特徴 3
3. 計画の構成 4
4. 計画期間と推進方法 5

第2章 社会情勢と町の状況分析

1. 本町を取り巻く社会情勢 6
2. 町の状況分析 7

第3章 町民ニーズの把握

1. 町民の重要度・満足度調査 10
2. 町民及び職員の意識調査 11
3. 職員研修（ワークショップ） 14

第2部 基本構想と基本計画

第1章 基本構想

1. 目指す将来像と基本理念 18
2. 重点目標 19

第2章 基本計画

1. 「わざわい」から生命と財産をまもる 20
2. 子どもを育て未来をつくる 24
3. 元気に年を重ねられる町をつくる 28
4. 生活しやすい環境をつくる 32
5. たまむらの良さを次世代につなぐ 36
6. 笑顔と活気ある地域をつくり、つなげる 40

第3章 基本計画との関連表

1. 基本計画と町民の重要度・満足度調査項目との関連表 44
2. 基本計画と個別計画等との関連表 45

第3部 資料編 47